

令和4年度 湖西市総合教育会議議事録

1 日 時 令和5年2月2日(木) 午後3時00分～午後4時28分

2 場 所 湖西市役所 委員会室

3 出席者

(1) 構成員

市 長 影山 剛士

教育委員会

教育長 渡辺 宜宏

委 員 袴田 雄司 佐原 陽子 西川 倫子 菅沼 泰久

(2) 意見聴取のための関係者として出席した者

教 育 次 長(寺本賢介) 企 画 部 長(小林勝美)

産 業 部 長(太田英明) 教 育 総 務 課 長(松本圭史)

学 校 教 育 課 長(鈴木聖慈) 学 校 教 育 課 課 長 代 理(石田 隆)

企 画 政 策 課 長(馬淵 豪) 教 育 総 務 課 課 長 代 理(竹中幹晴)

(3) 会議の事務のために出席した者

教 育 次 長(寺本賢介) ※再掲

教 育 総 務 課 長(松本圭史) ※再掲

教 育 総 務 課 課 長 代 理(竹中幹晴) ※再掲

4 協議又は調整に係る事項

モノづくり人材育成について

これからの小学校中学校について

5 協議又は調整に係る事項に関する出席者の発言

別紙のとおり

午後 3 時00分開会

(教育次長) ただいまから、令和4年度湖西市総合教育会議を開会する。初めに、市長から挨拶をいただきたい。

(影山市長 挨拶)

(教育次長) 次第に従い会議を進める。協議事項(1)モノづくり人材育成について市長に発言をお願いします。

(市長) 皆さんにご案内の部分も多いかと思うので簡単に説明し、皆さんからご意見を頂戴できればと思うが、モノづくり人材ということで、以前にも総合教育会議でも説明したように、湖西市としても「モノづくり推進室」を設置し、人材育成また産業ネットワーク、こういった時代や背景、また作るものが変わっても子どもたちもしくは湖西市民また湖西市の企業が持続可能でなければいけないと思っている。これに関しては、モノづくり推進室の職員が企業の連携について頑張ってくれていて、ネクスト湖西や様々な企業とも前向きな勉強させていただいているが、子どもたちの工場見学や体験、さらには、企業・金融機関・商工会・小中高大学・発明クラブ、そういった様々な機関と連携を取りながら時代の変化にも対応していくような企業のネットワークを、作るものが変わっても企業として産業として生き残っていく。当然、湖西市で雇用があってそして湖西市に住んでもらうためにも、モノづくり人材の育成と産業ネットワークは続けていかないといけない。昨年、市制50周年ということで主な企業の特別授業があり、「こさいの日」にトヨタ自動車や市内企業のプライムアースや浜名湖電装にお越しいただき、出前授業、サイエンススクール、また、自動運転などを体験いただくとともに、パラアスリートやソフトボール、ラグビー等、様々な運動部の方々にもトヨタ自動車からお越しいただき交流体験を行った。

また、トヨタ自動車の豊田章男社長の特別授業として中学生の質問に直接答えていただくといった、湖西市の子どもたちにとって大変貴重な経験をさせていただいた。これは、報道やYouTubeをご覧いただいた市外の方々から「湖西市の子どもたちは恵まれている、幸せだね」といったお声もいただいた。また、青少年の科学体験や先週末もモノづくり推進室だとか、新居町商工会の青年部、湖西市商工会の青年部と一緒にキッズエキスポということで、本当に大勢の子どもたちが普段できないようなネイル体験やアイシングクッキー作りだとか、モノづくりといっても楽しみながら身近に体験し、親子で楽しんでいるイベントも主催していただき、こういったものが継続できればと思っている。後で教育長からも学校の取り組みについて少し説明いただくが、今年51年目になるが、50周年に行ったことを全部行うという事はなかなか厳しいことは皆さんご理解いただけると思うが、是非、子どもたちがこういった体験だとか経

験を繋いでいくためにはどのようなことが考えられるか、51年目を降また、次の10年、50年に向けて当然市役所内でも共有したりアイデア出しを行ってはいいるが、是非皆さんの間でアイデアがあるというものはいただいきたいと思っている。例えば、「こさいの日」ということで5月31日に行ったが、モノづくり企業だけではなく、市内の商店の方々にも自主的に考えていただき、531円のお菓子だとかサービスのものだとか、そういったものを自主的に販売を行った商店もあったので、そのような自由な意見も含めてもっと子どもたちや湖西市が盛り上がるような前向きな意見が頂戴できればと思っている。

(教育次長) 続いて、教育長より現在の学校での取り組み内容について説明する。

(教育長) 市長の方からも説明があったが、50周年ということで子どもたちはいろいろな体験をさせていただいた。本当に触れることができなかつた事柄、触れることができなかつた人・モノ、本当にいろいろな事柄に触れることができた。是非、湖西市の子どもたちには豊かな体験を積み重ねることができる、そんな環境ができたらいと思う。そのような中、昨年度の総合教育会議で「モノづくり人材」ということで、キャリア教育受入企業リストをモノづくり推進室で作成している。これは小学生に該当する企業が19社あり、中学生においては職業体験などが可能なのは24社、高校では41社あるというリストが昨年度の総合教育会議の中で示されている。是非、それぞれの学校で体験ができるように今年度呼び掛けてきたが、新型コロナウイルス感染症の関係で本当に思い切った職業体験や工業見学がまだまだ軌道に乗っていないのが残念であるが、いろいろな事柄で小学校、中学校が当リストを使いながら体験することができたかと思う。小学校においては24項目、中学校においては26項目行った。こういう体験を行うことによって子どもたちが「なんで」とか「あれ」と思うことがやはり一番の勉強になるとともに、自主性や意識づけに繋がっていくのではないかと思うことから今後もさらに積み重ねていきたい。

(教育次長) ここからは教育委員と市長との意見交換となるが、進行については市長に願います。

(市長) 事前にもご意見を既にいただいている方もいるが、それぞれ皆さん様々なご意見があるかと思う。お一人お一人伺っていききたいが、昨年もモノづくりについては袴田委員からプレゼンしていただいたので、実際に企業経営というかモノづくり企業ということで意見もあろうかと思うので袴田さんから願います。

(袴田委員) 質問というか「こさいの日」を来年度以降どうしようかというイメージとしては、子どもたちが参加する参加型のイベントができるといいかと思う。成人式などでもそうであるが、子どもたちが司会進行など行っているとやはり周りの方々は見て興味を沸かせる。そういったことを考えると有名な方が来られて、その方たちを含めてパネルディスカッションのような形で進めていく。有名な方が来られるだけでずっと思い出として残っていくというところもあるので有効であるか考える。

モノづくり人材育成で自社工場を鷺津中学校の先生が事前に来られ、先生方がいろ

いろいろ質問していただく中で先生方が非常に興味を沸かしてもらい本番に挑めたわけだが、先生が興味を沸かせ質問してくれると生徒たちもそれに習って興味を沸かせてくれるところもあるので、IoTタブレットとかを使ってIoTの勉強もなるし、对学校にいても企業の中が見えるとかも一つ面白いのかと思う。現地に行ってみるというだけでなくそれとは別にIoTの勉強を兼ねタブレットを使って現地を見してみる。その代わり先生方が興味を沸かしていただいているいろいろな質問をしていただかないとつまらないことになってしまうので、先生も湖西市のモノづくりも勉強できるというところでもいいのではないかと思う。

働く場所がないと生徒たちがよく言うが、実際にそういったところで勉強していくとモノづくりをする場所は多くあるし、働く場所も多くあるというところ、徐々に湖西市内では働く場所が多くあるというように生徒たちも思ってくれるといいかと思う。モノづくり推進室の方が動きを見せてくれていて、モノづくり推進室を中心に学校との架け橋を担ってくれているので、学校で企業説明会をさせてもらったり、それ以外に中学校の生徒さんに見学してもらったり、全部モノづくり推進室が活発的に動いてくれているので大変ありがたいと思っている。

(市長) モノづくり推進室と企業の架け橋も含めて袴田委員には大変ご尽力いただきしており、最初にあった参加型、これは昨年の50周年もそうである。皆さんからもご感想ないしご意見いただけるかと思うが、当事者意識、自分ごとというところは、昨年の記念式典での高校生もそうであったが、これからの湖西市でも、例えば今度カーボンニュートラルの審議会を立ち上げるが、高校生も委員だけでなくフィールドワーク的なことも一緒にやっていく。他市町ではタウンミーティングの運営を高校生がやってくれているところもあるので、そういったことで一緒にやっていくには、小中高生どの段階であっても出来るような、かつ、やる気になるような形でやっていきたいと思っている。その前提で委員の意見というのは本当に貴重で、去年の7月に工場見学をさせていただき感謝申し上げます。こういったものもやはり生徒さんと先生方が一緒にやるのが大事であるかと思っている。最後の働き場所がないに関してはこの前白須賀中学校の1年生が初めて浜名湖電装に見学に行ったが、これもモノづくり推進室との連携で行かせてもらって非常に気づきがあったと大変好評であったと聞いたので、このような新たな取り組みをもって湖西市で働こうかと思ってくれるといい。是非これは企業やモノづくり推進室、また、様々な方々と勉強させていただければと思っている。

(西川委員) 先ほど市長から説明のあったキッズエキスポで、今までやってなかったような体験を子どもたちが出来てとても楽しんでいたという話を伺い、「こさいの日」の職業体験であったり、モノづくり、いわゆる製造業、それだけではなく湖西市には多くの商店があったり、水産業、豚肉、野菜といった農林水産業、サービス業であったり、そういったものを子どもたちが体験することによって豊かな体験、楽しい体験が湖西の中でも職業としてやっていけるといいうのも体験してほしいと思う。そ

の実現に向けて今後、学校の方で先生方に進路のアドバイスをしていただいたり、いずれはそれで育ってきた子どもたちが湖西に戻って来れるような形で、そのためには例えば「はたちの集い」の時に今後就職していく子どもたちのための企業展であったり、企業説明会を行っていただいて就職する時に湖西に戻ってくるといったものの形づくりにしてもらえたらいい。それと同時に、保護者向けにも同じような取り組みをしてもらえると子どもたちが進路で迷った際に親としてアドバイスができると思うので、市の方から湖西市には「こんな会社がある」、「こんな仕事がある」ことを保護者向けにやってもらえたらと思う。

あと、今現在、市内企業において職業体験を行っているかと思うが、もし可能であれば例えば海外工場を持っている企業に協力してもらい、高校生などが夏休みなどの長期休暇の時に海外で職業体験を行えるようになると異文化とか、多言語とか多様性を肌で感じるということも今後の人材育成には必要ではないかと思う。

(市長) 最初のキッズエキスポについては、モノづくりはまさにおっしゃるとおりで、モノづくり推進室の「もの」をカタカナにしてるのは製造業だけではないという元々の意味で、第一次産業から第三次産業までサービスであったり農林水産業、元々職業体験はお店に行ったり、農業・漁業も当然入っているし、本当に付加価値をつくるという意味でモノづくりは、製造業だけでなく色々な体験は引き続き行っていきたいと思っている。「はたちの集い」など、やはりそういった機会を捉えて何かをPRできる機会がいいかと思うし、コロナ前は成人式を二十歳の方々に企画していただいていたので、是非それも復活したいと思っている。最後の海外の件については、コロナで3年ぐらい止まっていて、コロナ前は海外での交流会、昔でいう姉妹都市や友好都市とかあったが、それを復活させようと結構企業の方々で行っていて、アメリカ・中国・ベトナムなど海外に拠点がある企業があるので、そういったところと提携を結んだり友好都市関係を結んだりして、先ほどのインターンや短期留学などを行っているの、そういったものも再開できるといいかと思う。

(袴田委員) 海外でいうと実際に見ると頭で想像するでは全く違う。そういった経験は子どもたちにとってすごく成長する糧になると思うので、そういう機会があると子どもたちにとって大変いいことであると思う。保護者向けの企業説明ということで西川委員からもあったが、湖西高校で企業説明会を各企業が出てきて行う準備段階の時に、保護者にも参加してもらえると助かるという意見も出ていた。やはり高校生の生徒が自分でこの会社に行きたいというふうに判断するためにも、保護者の意見は大変影響があるので、そういった会があってもいいのかと思う。

(菅沼委員) コロナの間のオンラインの発達はすごいので、オンライン、そこは考えてみてもいいのかと思う。モノづくり人材育成については本当に素晴らしい。こんな恵まれたところはないのではないか。それはやはり地元企業であるとかトヨタ自動車をはじめ、そういった方々の連携が一番であると思う。私の娘も発明クラブに入っており毎回楽しみに出かけている。湖西市は内輪で盛り上がるというところがあるので、

もっと外に発信したり外から人を巻き込んだ取り組みも行った方がいいのではないかと思う。教育の目的というところで、子どもたちにゆくゆく湖西に住んでもらって働いてもらうためには、家族や友達を大事にする気持ちや土地に対する愛情が大切である。佐吉翁の「チャレンジ精神」の原点である親孝行、世のため人のためになりたい思い、最新技術だけでなくそういったところの教育も必要であるかと思う。

(市長) 郷土愛や地域愛、こういったモノというか付加価値というか、地元の意識、さらにそこは愛着が深まる。愛着が深まるというのは今年の50周年記念事業もそうで、それをコンセプトに様々な企画を行ったが、それを継続していくことが大事であるかと思う。

(佐原委員) モノづくり人材の育成の湖西市と企業との連携は大変素晴らしいものであると思う。50周年で大変力を入れたというものがあつたと思うが、引き続き今年も出来る範囲で行っていただけたらと思う。子どもたちにとって体験・経験、「心が動く」、「感動」という言葉があるが、理屈や知識で人は動くのではなく、心が動くことで体が動いて感動することで動くという言葉がある。そういった感動を子どもたちが学校やイベント等で出来るものを実施していただけたらいいと思う。モノづくりをするための人材育成といった時、今作っている場所を見たり知ったりすることもあるかも知れないが、モノを作るというのはゼロから作り出したり、そこには協力というものがあると思うので、何かを協力して行えるイベントが「こさいの日」にあるのも面白いのかと思った。例えば、学校を超えてチームを組んでモノづくりに対する協力を行いながら気持ちを育てるようなイベントなど。あと、モノづくりの現場は男性がやっているという印象がやはりあると思うが、そんな中でも女性も働いている、活躍している場があるというところを発信していただきたいと思う。

(袴田委員) モノづくりの現場はどうしても男性職場というふうに見られがちであるが、意外と女性の中でも機械に興味があつたり私は現場の方がいいと思う方もいるので、適材適所で意見を聞きながらやっていかないと今後の「少子高齢化＝労働人口」というか、労働できる人口もどんどん減っていくので、そういった場でも活躍していただける女性の方は増えていってもらえると会社の人材不足に対しても対応していけると思う。別の話になるが、親子でモノを作ることはすごくいい経験になると思う。そういったものを親子たこあげ大会だけではなくて、他のイベントの時にやってみるのもいいのかと思う。

(市長) まず最初の取り組みについては、モデルというか素晴らしい事例であると紹介できる。最近よく議論するのはコロナとか物価高騰なり、原材料とか半導体とか、コロナ前の人手不足が一旦止まってはいるものの、これから人手不足がまた再燃することが言われていて、当然人口減少もそうであるがいろいろな意味で外国人労働者の家庭もあるが、こういったモノづくりがかなり効いてくるという危機感を持っている方が多いかと思っているので、様々な働き方の中で活躍いただけるというのは一つでもこういった成功事例が生まれてくるといいかと思う。また、協力のご意見について

はまさにおっしゃるとおりで、学校ごとではなくてシャッフルというか一緒にミッションがあってそれをクリアするような体験みたいな、今具体的なものは浮かばないが、そういう経験も同じ湖西で活動していてせっかくのそういった交流の機会は一つのきっかけになるかも知れないのは大変いいヒントをいただいたと思っている。少し思ったことがあって、西川委員に聞きたいのは今、新居町が湖西市と合併して10年程経つが、昔も町が分かれていたりとかあるものの、そういった交流とか今も昔も変わっていないのか感じることはあるか。

(西川委員) 交流が深まったというのは私個人としてはあまり感じていない。

(佐原委員) 学校同士の交流でふと思い出したのは、わが子が小学生ぐらいの時は湖西市内の小学校が集まって演劇を見たりとか、他校と触れ合うまではいかないけれど、こんなに同じ学年がいるのだと肌で感じるというか、市民会館がなくなってからはそうやって学校が集まること自体がなくなってしまった感じはする。

(市長) 今はそういったものはやっていないか。

(教育長) 市内全校でというものは今はない。授業数が増加しており時間的余裕がないということもあるし、交通の便という関係もあるし一括に集まる機会がない。かつてはアメニティプラザに全校集まって縄跳び大会など行っていたが、中学校も各校の総合的な学習の時間の取り組みの発表を行ったということもあったが、先ほどのとおり時間的な余裕がなくなってしまったことから、今は各校での発表で終わっている。機会があればまたやっていきたいかと思う。

(市長) 交流する機会が少ないのはおっしゃるとおりで、一緒に何かを作るなり、ミッションをクリアしていくもの等、また考えていけたら思う。モノづくりはすごく幅が広いので、当然行政だけで進めていくものではなく、企業の皆さん、商工会の皆さん、発明クラブや職業訓練センターなど、多くの関係者があって長い期間をかけて進めていかなければならないので、昨年の50周年をきっかけにさらに今年、来年と延ばしていくような形がいいかと思っている。皆さん一人一人のご意見と50周年の提案自体もそうであるし、様々な考え方があろうかと思うので、是非それを継続的に、まさにモノづくりというか人材育成は継続的にやっていかないといけないのは当然であるので、また前向きなご意見をいただければと思う。

(教育次長) これにて、協議事項(1)モノづくり人材については終了する。

(教育次長) 続いて、協議事項(2)これからの小学校中学校についてに入る。最初に教育長より令和2年度からの経緯について発言をお願いします。

(教育長) これからの小中学校についての意見交換会の経緯について説明させていただく。これは学校規模適正化という観点での意見交換会である。令和3年2月16日に令和2年度の総合教育会議を行った。その中で湖西市教育大綱という観点ともう1

点が、学校規模適正化の2点について開催された。令和元年度の出生数が急激に減ったということもあり、今後のことも考えて総合教育会議で意見を交わした。会議の中で湖西市立の学校教育施設適正化検討委員会を開催したらどうかという意見があったので、令和3年6月14日に第1回適正化検討委員会を開催した。以後、その年度において6回開催し、令和4年3月16日に教育委員会に報告をいただき、その報告書を基に令和4年度になって各地域あるいは小学校、中学校、PTAへこの適正化検討委員会の話し合いの流れと方向について説明し意見をいただいた。計10回市内で説明をしてきたが、直近でいうと1月18日の白須賀小中学校について、東小学校、知波田小学校、湖西中学校について1月12日に説明した。いろいろなご意見があったが、それぞれの地域3つの方向性について各地域に説明しているところである。

(市長) 冒頭申し上げたとおり経緯としては2年前、検討委員会で案を作成していただいていた地域などで説明させていただいたというのが現状である。私も行かせていただいたが元々ここで言っていたのがクラス替えであるとか、学校行事であるとか部活動、これは地域移行の分ももちろんあるが、あとはPTAの役員であるとかそういった子どもたちの教育環境、そして、保護者の実際の当事者としてのご意見。こういった方々のご意見をこれまでも多く聞いてきたが、今日の委員の皆さんはまさに子育て世代の方々である。先ほど教育長から説明のあった地域のご意見の中でも、やはり地域での意見交換会で学校に関わらずタウンミーティングでもそうであるが、比較的働いている世代というよりも高齢世代の方が多いわけであるが、自治会の役員の方からは保護者の意見がその時もあるとあって実際に保護者の意見が聞いて良かったというのはあった。もちろん子どもたちが当事者であるし保護者、高齢世代の皆さん、地域のコミュニティという感じでもあることから、そんな中で是非また皆さんのご意見をこれまでやってきた方向性を見出していけたらと思う。一番の当事者ということであれば菅沼委員が北部でも事前に保護者のご意見を聞いてきたと伺っているので最後にお願ひしそこから他の委員の皆さんに広げていきたいと考える。

(菅沼委員) 地元の方の思いというものは大変強い。私自身も地元の説明会に行くと人口が減ることの市の施策に対する観点が多い。私個人としては、教育問題は全く別物で学校がそこがあれば人が増えることはないと思う。逆に学校がなくなると地域が寂れてしまう。それは突然前倒しで新所幼稚園がなくなってしまったり、今まさに体現しているので、非常に地域としては寂しい思いがあって当然。今回の問題に対して一番大事にされるべきは現役の保護者。それからこれから子どもが学校に通う世代の声が大事であると思う。私の周りの同世代の方々の意見というのはすごくあるので、保護者を対象にアンケートをとっていただいてその結果を早急に取りまとめることがまず大事であると思う。3案は決まっていると思うがそれありきであるのか。

(市長) 出発点が現状維持ではというところがあるので、3案はこれまでの検討委員会であるとか、保護者の方々の意見を出してきた案で、案を出し始めると何案も出てきてしまう。まず方向性を決めた上で案は示してやっていかないといけないのかと思

う。

(菅沼委員) いずれにしてもかなり危機感迫る近々の課題であると感じている。

(西川委員) 先ほどアンケートの実施というのが菅沼委員からあったが、やはりアンケートを実施すべきと私も思っていて、それはもちろん地域の方々に対しても必要なことであるかもしれないが、一番大事にすべきは今後そこに通うであろう子どもたち保護者たちの意見を参考にしなければならないと思う。子どもたちがそういった環境で学びを進めていくのかということのはとても大切なことだと思うので、先ほど児童生徒の推移という部分で令和8年には知波田小学校の1年生が8名になるというのを拝見し、これは急いで進めていく必要があると思う。アンケートを実施するにあたっては、今小学校に行っている子だけではなく、今の幼稚園などここ数年でその小学校に上がっていく保護者向けにアンケートをすぐに実施していただいて、それを参考にスピーディーに進めていっていただきたいと思う。

(市長) スピーディーというのはまさにそうで、手遅れになる前に今のままだというのは前の総合教育会議で一致した意見だと思うので、あとは各論のやり方は3案示させていただいているが、他にもっといい案があるであろうというのは当然であろうかと思う。その代わりに令和8年とか、もちろん8名が10名、20名になってくれるのがいいし、そういったまちづくりをやっていかないといけない。先ほどの菅沼委員の意見にもあったとおり、そこは現実の子どもたちの環境というのは大事であるので、方向性としてそういった統廃合をするかご助言いただいたとおり、ご意見を聞きながら、その代わりずっと待っているわけにはいかないとは思う。

(袴田委員) 2年前も同じような議論になったと思うが、やはり一番重要なのは保護者のこれからの湖西市で子育てをする、その保護者の方とお子さんのためにどうすべきかということが一番重要であるかと思う。先ほどいろいろな意見が出ているが、小学校・中学校で9年間あるが、その9年間が楽しい学校生活になるのか、それとも保護者の方がすごく負担になって、もうその場所に居たくない、湖西市を出たいという保護者が出てきたりすると、せっかく子育てに力を入れていこうという市の動きになってきていると私自身思っているので、本当に子育て世代の人たちに子育てしやすい環境を作っていくということが大事であると思う。時間がない、子どもが減ってしまうという中ですごくいい環境で子育てができるかというとなかなか難しいのではないかと思うので、その辺は早急に動きを見せていかなければならないかと思う。

(市長) 2年前にも言ったが待ったなしである。そこは各論としてどういうやり方がいいのかということは、まさに保護者の皆さん、これから小中学生の保護者になる方も含めてである。

(佐原委員) 本当に難しい問題であると思う。待ったなしであることはもちろんであるが、では本当にどうしたらいいのかっていうのを丁寧に丁寧にやった2年間であったと思う。聞いてみてやはり菅沼委員がおっしゃっていたとおり、教育の問題と地元への愛とか市の施策の問題を一度分けてそういう教育環境が子どもたちにとっていい

のか。小学校の6年と中学校の3年の9年間が全く同じメンバーだと辛い。これはよく言われることで湖西市内で見ると全部そうである。新居小は新居中へ行くし、岡崎小は岡崎中に行くし、鷺津小は鷺津中に行くし。そこは一緒であるのだが、ただクラスがたくさんあるかどうかというところが違う。クラスが少ないと仲が良ければいいのだけれど、本当に一度お友達と、それからお母さん同士もあり得るが少し気まづくなるとそこからなかなか修復が難しくなってしまう。やはり複数クラスがある程度あって人間関係がシャッフルできるような状態が、多くの人にもまれることで特に小学校の時代というのは、あの子とはダメだったが、この子とはもう一回やり直せるなど、人間関係とか友達関係を構築できたといういろいろな経験があって初めて人間の形成になっていくと思うので、そこを目指すことが一番いいのではないかと思う。そういった環境になるように動くべきであると思う。

(市長) 教育委員会はもちろん中心であるが、様々なところ、これは地域の方々、また有識者の方々、市外の方、市内の方々であるが、聞けばどの市町村も苦労しながらというか何年経っても多分意見の完全なる一致はないかと思うので、やはりどこかの段階でももちろんお話は聞いた上で行政としてそこはしっかりと責任を持って決断させていただく。もう一度皆さんに聞きたいのは、人間関係とか小規模校の保護者から直接聞いた負担感とか、地域間の保護者の負担感の格差とか話が来ている。菅沼委員のところにも地域の保護者の意見も来ているとお話もあったかと思うので、そういったご意見ももちろん、ご自身のご意見もそうであるが保護者の声を紹介いただけたらと思う。

(菅沼委員) 特には東小学校、知波田小学校、白須賀小学校から意見というよりもSOSに近い。もうかなり子どもたちと保護者の方は疲弊もそうであるが、苦しんでいるような方がいて人が少ない中での9年間は耐えられない。そこを抜け出せず病んでしまいそうだという人が多数いるようである。私個人としては知波田小と東小のとりあえず小中一貫校をやろうとする案があるとすると反対である。それはどちらにせよ暫定的な案であるし、その先5年とかみたら完全に白須賀のような感じになるのではないか。であればやはり最初からその先を見越した合併を考えるべきではないか。それを考えるといきなり岡崎地区に全部の地区（新所・知波田）が集まると教室が足りなくなるとか、今近々の課題はまたあると思うが、その辺はあるにしても私はその暫定的な湖西中を小学校にするには予算的にも無駄であるし、白須賀で起こっているような問題がまた出してしまうと将来そのご家庭の方々がかわいそうであると感じる。あと、2年間すごい議論をされてきて今の段階は本当に話の中の段階であるとするれば、ここで何か必要であるかということ、やはりトップからの決断であると思う。教育委員としては、アンケート内容を市だけに決めさせるのではなくて、教育委員の場ですべてしっかり内容を吟味して保護者に対して有効な内容のアンケートになるよう協力したい。当然、今までのやり方だとwebでやったりとか考えられるが、やはりDX推進の中でwebからSNSの時代に完全に移行されていると思うことから、LINEの活用など

やり方を考えていただきたい。それをもって普段届かない声を聞いた上で、市長に決断していただきたい。そこは我々もサポートしていく。そのぐらい待ったなしの状況に来ている。今までの適正化委員会の有識者の方の考えは大変重要であるが、それと同時に例えば北部とか過疎地域に対する地域活性化策についても丁寧に説明していただきたいと思う。

(市長) 最初にいただいた学校の件については、小中一貫で例えば東小と知波田小だけを合わせるのは将来的にまた少なくなるというのはそのとおりで、有識者会議でも小中一体型にしようとなったら保護者からも将来的にまた統合になるのではないかというのはそのとおりだと思うので、具体的にどうなるかはまた別として皆さんにも意見を聞きながら選択肢も含めて、当然その他の意見もあろうかと思うが、そこは少し待っていただけたらと思う。あと、アンケートの取り方についてはwebなのかLINE、湖西市の公式LINEも今かなり増えてきていて3万人近くいるので、LINEであるとアンケートであったり相談。例えば学校の人間関係やいじめの相談もLINEであったら相談できるという子どもや保護者が多くいるので、そこは相談させていただいて教育委員会と進めていきたいと思う。まちづくりに関しては、別物なのか一緒なのかということやはり教育施設も一つの地域のコミュニティとしては大事であると認識しているが、その中でどういったまちづくりにするか。例えば学校の統廃合については他市町でもやっているが、そこを福祉施設にするのかコミュニティなのか観光資源なのか別の使い方をしているところもあるが、そこはしっかりと地域と議論していかなければならないと考えているので、セットというかまちづくりの一つが小中学校の教育機関はやはり入れていかなければいけないと思う。

(西川委員) 先ほどのアンケートの件であるが、ふと思うのは意見をいただくのであれば先生方の意見も入れていただけたらと思う。実際、教育現場で子どもたちと一番に接していただいている先生方が、今後子どもたちの学習環境をどのようにしていけばいいかを伺いたいというのが個人的な意見である。いずれにしてもスピーディーに適正化を進めていただくとともに、進んでいく上で通学の仕方をどうするのかなどの建設的な議論になっていくと思うが、一つ思うのが今の新居地区についてバス通学を認めている地区があると思うが、実際の距離で決めていないと思われる。というのも私が住んでいるところは郷北で小学校まで4 kmある。ただ、郷北地区はバス通学が認められておらず、三ツ谷地区、あけぼの地区は認められている。このように実際にかかる距離・時間で決められていないと思うので、今後、スクールバスについて何らかの検討が入る際には地区ではなく距離について少し考えていただけたらと思う。

(市長) 現実的かつ建設的なご指摘についてはおっしゃるとおりであると思う。これまでの議論でも各地区からご意見をいただいているし、当然そこは統廃合して今よりも遠い学校になるとか、今も使っている児童生徒さんもいるのでそこはしっかりと整備していかなければならないと思っている。様々な距離はどここの地区でもあるので、そこは不公平感だとかがないような形でスクールバスに関しては進めていけたらと

思っている。

(袴田委員) 部活に関する事で白須賀の保護者の方から、他の学校に送迎しないといけないというのが保護者が少ないこともあって大変負担があるという話をいただいた。そういった面も大きな負担になるのかと思う。また、スクールバスの件も自社の従業員からも言われたが、岡崎校区だとスクールバスでなくて梅田地区とか少し遠い場所へ子どもが歩いていくに危険な場所を通らなければならないので心配であるとのことであった。

(市長) 歩道など最後のご意見についてはいろいろなところでご意見いただくので計画しているが、ちょうど今年、新幹線南の湖西バッテリーパークに繋がるバッテリーロードの整備が完了して、ようやく大規模な道路予算が他のところにも振り分けられるので、当然、緊急性とか危険性で整備してはいるが、安全第一に進めていきたいと思っている。部活動については、白須賀から新居に通ったりとかそういう方もいたり、これから部活動の地域移行があるのでそこと合わせてかなと思う。元々のこの学校再編の出発点も部活動も少人数であると入りたい部活に入れないと保護者の方から言われたので、少しでも全てがある学校の方が少ないが一つでも多くの部活動、これから地域移行しながらであると思っているが、その負担もどうやって解消していくか地域の方々と一緒に考えていく必要がある。

(教育長) 部活動については、来年度に子どもたちに「どのような部活をやりたい」とか、「土日に地域でやる部活があったら入りたい」とか、そういうようなアンケートを取らせていただくし、逆に先生方とかスポーツ協会の方々にも「指導していただける方」、「指導していただける種目」、そういったものを聞きながら、あるいは先生方で土日やっていただける方もいると思うので、そういった諸々を来年度1年をかけてアンケートなり、まとめてある程度の方向性を出していきたいと思っている。今、先生方が忙しいから部活をなくすということが表に出ているが、実はその裏には子どもが減少していて、例えば野球部があるが二つの学校が集まらなると野球の試合ができない状況になっている。そうすると最終的にどうなるかということ、部活の数を減らしていくしかない、入りたい部活を減らしていくしかないということになることから、できれば地域移行していけば子どもたちも活動できるのではないかと、やはり指導者がいないとどうしても前に進んでいかないので、その辺を絡めながら来年度は考えていきたいと思っている。今現在、全くやっていないかということそうではなくて、ジュニアスポーツクラブをやっている。野球であるとかバレーであるとかバスケットであるとか、月に1回ないし2回地域の方に指導していただいているが、それがさらに様々な種目に拡大できたというふうに思っている。スクールバスの地域、新居地域の関係については路線、元々遠鉄の路線があったものであることから、その遠鉄の路線沿いを活用したということはあると思う。しかも、車通りが激しく登下校の危険性の観点からそうなっているかと思う。これで学校の形が変わってきてスクールバスを巡回させなければならない状況になってくればそういったところも考えて進め

ていきたいと思っている。

(佐原委員) よく部活で問題になるのが中体連、中学校単位で出なければならないというところの問題で縛られてしまうと思うが、そこを考えなくてもいい方向性になるのか。

(教育長) 今、中体連の方も動いているところであって、今の中体連の団体のところとクラブチーム側が県大会に繋がっていかないという状況になっていることから、その辺りの改革をしている。来年はできる部活からということで、各学校は地区大会から県大会へと繋がっていき、クラブチームは県内のクラブチームを一つにして大会を行い、1位になったチームが県大会へ出場する。例えば、中体連では中学校単位で行っている地区大会で3位以内になったら県大会に出場できるわけだが、クラブチームも全国大会へ出場できる道が出てきている。まだまだこれは全ての部活ではなくできる部活からということで進みつつある。

(市長) これも前の総合教育会議であったか中体連が変わってくれない議論があったが、ようやく変わってくれたということを含め、生徒たちがやりたい部活であったり希望を叶えられるような形に持っていければと思う。これも親御さんのご希望であったり、もちろん学校だけでなく地域としてやっていかないといけない部分もあるので、そこは確保していけたらと思っている。

(菅沼委員) 統合後の跡地利用に関して意見があって、いろいろな活用方法が全国的にあると思うが、やはり教育のために活用してほしいという思いがあって、海外にインターナショナルスクールを誘致することもいいのではないかと思う。今、不登校児や発達障がいなどが問題となっているおり、そういった子どもたちやその親たちのためのフリースクール。これは本当に全国各地で困っている子どもや親たちが多くいると思うので、そういう子たちを対象にということか、これは教育で人が呼べるぐらいの話であると思う。教育施設は残し地域だけではなく全国などからもしかしたら湖西に移住してくれるぐらい可能性があることだと思うので、特に不登校児や発達障がいに対して手厚い町ということをして6万人弱の市だからこそできる思い切った施策をやってほしい意見が保護者から多い。

(市長) 皆さんの前半の学校再編の議論からさらに跡地利用と、まちづくりとしても大事なことである。菅沼委員の冒頭にあったように学校で教育施設であったり福祉施設であったり観光施設であったりいろいろな事例はある。「何ができるのか」、「どうできるのか」を地域の方とも考えなければいけないと思うし、アイデアとしてはすごくいい。インターナショナルスクールもそうであるし、フリースクールについては今需要としては新所幼稚園の話が先ほども出たが、ああいう発達支援拠点もこれから増やしていくがフリースクールとか、「何がこの地域としていいものか」、もしくは「この地域としていいのか」、「湖西市としていいのか」というのは今いただいたような前向きなご意見をそこの地域の方と一緒に3つを1つにしたら後の2つをどうするかというのは、まちづくりとして教育委員会だけではなく進めていかなければな

らないと思っている。

(菅沼委員) 湖西のまちづくりはやはり何より自然がある中での子育てというのは、絶対にベースにあると思う。海があって山がある、そういうところを活かしながらPRされた方がいいのではないかと思う。

(市長) 一緒にやっていただけるとありがたい。もちろんここでご意見をいただきながら一緒に進めていっていただけると行政だけで先のモノづくりの人材育成もそうであるが、届かないところが多いのが現状であるので、引き続き皆さんからのご意見であったり一緒にというところをお願いできればと思っている。

(市長) モノづくり人材育成そしてこれからの皆さんからの忌憚のないご意見、またいろいろなバックグラウンドを持った中でのご意見に感謝する。これは是非こういったご意見を基に、また先ほどの保護者の各論でのアンケートという話もいただいたので進め方も含め、そこは保護者の皆さん、地域の皆さんと一緒に進めていけたらと思うとともに、皆さんにはご知恵をいただけたらと思う。また、先ほどのスピーディーにはまさに菅沼委員の危機感を持っている保護者の皆さんがこれだけ多いというのは、しっかり受け止め子どもたちの教育環境という観点でやっていきたいと思っている。

(教育次長) 以上で協議事項(2)は終了する。続いて3その他に入る。何か発言したいことがあるか。ないようであれば、3その他は終了する。

以上で、令和4年度湖西市総合教育会議を閉会する。

閉 会 午後4時28分終了